

第三者意見

CSRレポート2009に引き続き、IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」代表川北秀人氏から第三者意見をいただきました。

当意見は、本レポートおよび関連ウェブサイト (<http://www.yrc.co.jp/csr/>) の記載内容、および同社の環境、原料調達、人事、CSRの各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、環境負荷の削減を中心に、PDCA (マネジメント・サイクル) を進めていると言えます。

高く評価すべき点

- 「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクト (<http://www.yrc.co.jp/csr/mori/index.html>) について、開始からわずか3年間で、生物多様性の維持・改善に配慮した植樹を国内外で13万本以上行うとともに、その苗木の栽培も自社内で行い、09年度は6割以上を社内で供給するとともに、国内では自治体や他社にも提供していること。森林生態系や緑地の維持・改善のための社会貢献プログラムとして、世界最高の水準にあると高く評価します。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- CSR推進体制 (<http://www.yrc.co.jp/csr/management/group.html>) について、2011年までと17年までの中・長期目標を定め、「報告共有型」から「課題解決型」への転換が始まったことを評価しつつ、今後はボトムアップによる具体的な目標・指標や施策の明示が促されることを期待します。
- 環境負荷の削減 (<http://www.yrc.co.jp/csr/environment/index.html>) について、世界共通ブランドとして低燃費タイヤ「BluEarth」を開発・販売するなど、製品による環境負荷削減が進んだことを評価しつつ、廃棄物発生量について国内主要事業所の2カ所が目標を達成できていません。また、温室効果ガス排出量は、総量で京都議定書目標を達成し続けているものの、エネルギー原単位ベースではほぼすべての主要事業所が目標を達成できていないことを憂慮します。今後は、要因の具体的な開示と、「生産量の変動に適用するエネルギー使用の非固定化」(エネルギーのジャストインタイム化) など、課題と手法の可視化を徹底的に進め、部門間や海外拠点でも体制の共有が進むことを強く期待します。
- 調達先におけるCSR (<http://www.yrc.co.jp/csr/society/>

IIHOE
「人と組織と地球のための国際研究所」
代表者

川北秀人

IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。
<http://blog.canpan.info/iihoe/> (日本語のみ)



partner.html) について、サプライヤーの環境や人権などへの取り組みや課題をサプライヤー自らが可視化する自己診断シートの導入や、天然ゴムについての調査を着手したことなどを評価しつつ、今後はサプライヤーによる取り組みの改善を促すために、事例の共有・表彰、課題解決に向けて交流する体制を整えることを、引き続き強く期待します。

- 働き続けやすさの向上 (<http://www.yrc.co.jp/csr/society/employee.html>) について、育児・介護・看護のための休暇・短時間勤務制度の利用者が横浜ゴム(株)従業員の0.5%にとどまっており、2010年度に新設された「地域限定」制度による改善に強く期待します。また、総労働時間の管理についても、実践は各現場に任せて結果だけを集約するのではなく、会議や意思決定の仕組みを見直すなど、原因にさかのぼって大きな効果へと結び付けること。
- グローバル企業としての中期的な人的ポートフォリオの拡充について、グループ企業のマネジメント層職位の統一的な評価に着手したことを評価しつつ、今後は海外拠点や本社の次世代の経営層育成が加速されることを強く期待します。

一層の努力を求めたい点

- 障害を持つ人の雇用の促進 (http://www.yrc.co.jp/csr/society/employee_4.html) について、法定雇用率を下回る状況が続いており、グループ総体で早期に満たすために、他社の研究や職種の開発をさらに積極的に進めること。

第三者意見をいただいて

横浜ゴムは、2008年から『社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる』を経営ビジョンとして表明し、気候変動などの地球環境問題をはじめ生物多様性の危機、資源枯渇などCSR課題の取り組みを推進しています。

IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)代表川北秀人氏には昨年より第三者意見をいただいております。

私はCSR担当役員として、ご意見・ご指摘を理解し迅速な対応をとってまいりました。

2009年度には川北氏にもご出席いただき従業員座談会やレポート編集討議・ヒアリングなどさまざまな意見交換を進めさせていただきました。

また昨年ご指摘いただきました課題については、グローバル展開の推進ならびにサプライチェーンへの展開を推進してまいりました。今回ご指摘の障害を持つ人の雇用促進は社会からゆるぎない信頼を得るためのCSR重要課題と認識し迅速に取り組んでまいります。



取締役常務執行役員
CSR本部長
福井 隆